「大正6年の高潮と谷津干潟」～地域防災の今～第2章

秋津地区　防災の取組み

今、秋津地区では防災活動が活発です。秋津地区自主防災会を中心に秋津まちづくり会議、秋津連合町会が協働して、さまざまな防災活動に取組んでいます。

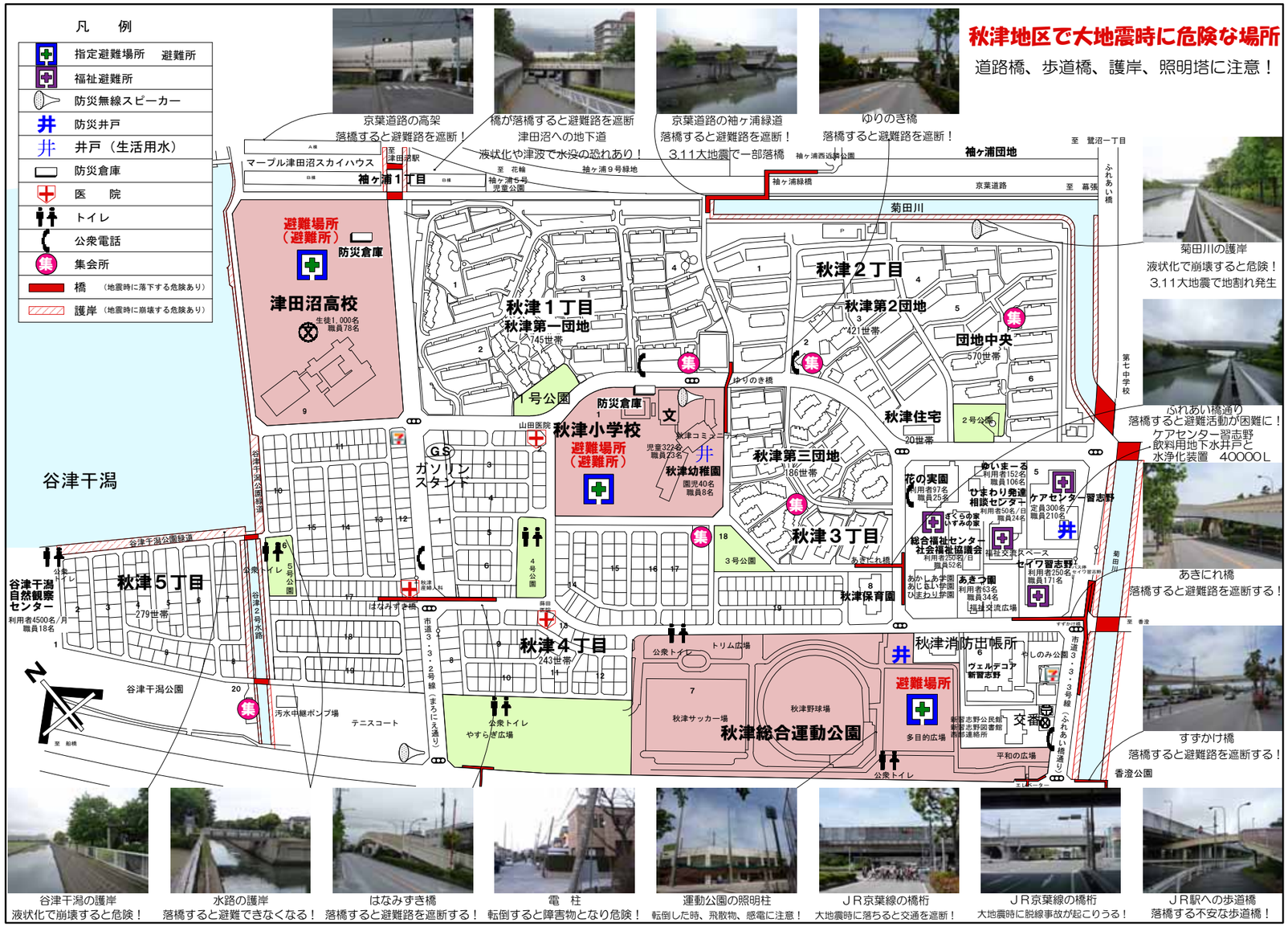
秋津地区最新防災マップ

秋津地区は2641世帯（約6870人）の居住者が住む。
４管理組合、２町会、１自治会がそれぞれ、自主防災会を組織している。一方、２教育施設、６福祉団体があり、それぞれに防災への対応を行っている。今後は自主防災会と諸団体が共同で、有事への取組体制を構築することが求められる。

秋津地区における大地震時に危険な個所は本図のようである。
秋津地区と他地区を結ぶ道路は多くの橋が架かっており、鉄道や跨線橋の破損により交通が遮断され地区が分断されることが予想される。

秋津地区は全域が東京湾の埋立地であるため、液状化の危険制性が極めて高い。
先の3.11大地震でも秋津地区のいたる箇所で液状化現象が見られた。

秋津地区における戸建住宅は昭和56年以降、建てられており、新耐震基準に適合しているので、耐震上は問題ないものと思われる。
但し、埋め立て地であるため、液状化による沈下、傾斜等の被害は避けられない。



秋津地区の一時的な**避難場所**として「**秋津小学校**」「**津田沼高校**」「**秋津総合運動公園**」が指定されている。
この内、**避難所**は「**秋津小学校**」「**津田沼高校**」である。

２ヶ所の避難所は震災により居住や帰宅が困難となっ場合の一時収容、保護する。
ＪＲ新習志野駅では多くの帰宅困難者が発生し、避難所に避難するものと予想される。

秋津地区には「ケアセンター習志野」「セイワ習志野」、「ゆいまーる」、「さくらの家」の4施設が**福祉避難所**に指定されている。

秋津地区自主防災会とは？

秋津地区自主防災会は秋津地区連絡協議会で4年の歳月を経て平成21年3月に発足した。
しかし、３年間はほとんど活動らしきものを行わないうちに平成23年3月11日の東関東大地震をむかえた。

秋津まちづくり会議は３．１１大震災後１年目をきっかけに各町会、管理組合の自主防災会に呼びかけて「秋津地区防災会議」を開催した。協議の中で「災害対策マニュアル」を作成し、さらに毎年、同一メンバーで構成する事務局を設置し、平成２５年度、本格的な防災活動ができる体制ができ上がった。

■災害対策本部の設置

(a) 災害対策本部立ち上げの時期

下記の事態が発生した場合、秋津小学校コミュニティ諸室に災害対策本部を立ち上げる。

- 秋津地区に震度5弱以上の地震や大規模災害が発生した時
- 習志野市に大津波警報の発令された時
- 習志野市より設置が指示された時
- 秋津小学校が避難所に指定され、周辺住民等が避難した時
- 災害対策本部長及び、その代理が必要と判断した時
- その他、状況に応じて設置を決定する。

災害対策本部の設置が決定された場合、担当員は、秋津小学校コミュニティ事務室に集合する。

対策本部員は、本部長、副本部長及び会員で概ね５～１０名が集合した時、直ちに編成を開始する。

(b) 災害対策本部の決定内容

災害対策本部は、次のことを決定する。

- 対策本部体制の配備及び廃止に関すること
- 災害関連情報の伝達等に関すること
- 地域住民の避難・誘導の支援、統括に関すること
- 地域住民の救護の支援、統括に関すること
- 避難所の運営に関すること
- 地域の復旧・復興に関すること
- その他災害等に関すること

(c) 対策本部の設置場所、開錠

- 秋津小学校内に災害対策本部が設置された時は、コミュニティルームの全室を対策本部に開放する。
- 鍵は保管者より貸与し、対策本部閉鎖後は鍵保管者へ返却する。

■災害対策本部長、副本部長の役割

- 秋津地区自主防災会会長は上記の大地震等の災害時において、災害対策本部長となり、副会長が副本部長となる。
- 本部長は災害発生時には、災害対策本部を代表し、活動の指示や統括を行なう。
- 市など防災機関との連絡・調整、他の関係機関への要請等を行う。
- その他必要に応じて本部長が任命する。
- 副本部長は本部長を補佐し、本部長が不在あるいは事故等がある場合は副本部長が職務を代行する。

秋津地区自主防災会の組織図

本部長 ― 副本部長 ― 習志野市（危機管理課）

総　務　班	・情報の集約 ・他機関等との連絡窓口 ・その他総務的役割
情報収集・広報班	・各自主防災会からの情報収集 ・関係機関からの情報収集 ・地域住民への情報伝達（広報）
物資・調整班	・給食、給水活動に関すること ・防災倉庫備蓄品の適切な配布、貸出し
避難・救護班	・被災者、避難者、救護者（在宅支援者の救護を含む）の把握 ・各自主防災会の避難、救護活動支援 ・医療機関との連携
ボランティア班	・ボランティア活動への支援 ・情報収集と救助活動

町会自主防災会と秋津地区自主防災会の役割分担

町会･管理組合の自主防災会

【平時の活動】

- 住民に防災に関する知識を啓蒙
- 災害予防に心掛け、町会員への防災訓練を実施する。
- 平時における防災活動を企画推進
- 町会・管理組合の防災備品を整備し、管理する。

【有事の活動】

1. 避難誘導活動
- 火災発生場所から居住者を避難させる。
- 住民(弱者)を避難場所に誘導する。

2. 消火活動
- 町会員が協力して初期消火に努める。
- 災害発生時の火災防止に努める。

3. 救護活動
- 町会の負傷者を救出･救護する。
- 傷病者を把握し、災害対策本部・医療機関へ連絡する。
- 負傷者の応急手当を行う。
- 負傷者を医療機関に搬送する。

4. 情報伝達
- 町会内の被災状況、情報を把握し、地区対策本部に報告する。
- 住民の要望を整理し、地区対策本部へ伝達する。
- 生活情報を避難者に伝達する。
- 関係機関からの情報を収集し、記録する。
- 町会住民に情報を伝達する。

5. 給食給水
- 備蓄食料を町会員に配分する。
- （炊き出しし、町会員に配分する。）

秋津地区自主防災会

【平時の活動】

1. . 総務
- 各自主防災会間の協力体制構築
- 災害発生時の指揮系統整備
- 防災計画、災害時活動計画の策定
- 行政や地域団体、福祉施設、学校、地元企業などとの調整や支援協定の締結
- 総合防災訓練計画の策定、実施

2. 避難･救護
- 避難所ー秋津小学校と協議し、学校、町会管理組合間で避難所協定を締結

（避難場所の区分け、生活方法、物資調達方法と分配方法　等）

3. 物資
- 救護物資等の調達・配分計画の作成
- 共同備蓄対象品目の検討、備蓄方法、体制の検討
- 地区内企業へ食料確保の依頼を検討
- 防災資機材の点検･整備

【有事の活動　：　災害対策本部の立ち上げ】

1. 避難所の開設
- 食料・水・食器その他必要資材の調達
- 緊急物資と防災倉庫内の災害備品を配布・貸出し
- 避難者名簿作成
- 避難所の環境整備･保持
- ボランティアの登録、名簿の作成

2. 情報伝達･収集
- 秋津地区全体の安否、被災者、避難者、救護者数、要望等を把握し、行政等へ連絡
- 行政その他からのボランティア参加等の情報を各町会・管理組合へ伝達・提供

3. 救護
- 給食･給水活動、食料等の配布
- 炊き出し・配布
- 救護物資の仕分け、配布
- 負傷者の応急手当
- 傷病者の搬送支援
- 災害トイレ設営、整備、清掃
- 医療機関との連絡・連携

稼働！

秋津地区自主防災会

多くの成果があった

総合防災訓練

主催　習志野市＋秋津地区自主防災会
協力　秋津連合町会
協力　秋津まちづくり会議

H25年9月1日（日）9時～12時
避難所：秋津小学校体育館

訓練の手順

東京湾北部地震（M7.3、震度６強）を想定して、全員参加型訓練。
自宅での自助訓練から始まり、町会の安否確認、町会別避難誘導訓練、避難所開設訓練、さらに災害対策本部設立訓練を一連の流れの中で行った。

避難所（体育館）に集まる避難者

多くの避難者ごったがえした体育館玄関

約300名の参加。
従来まで実施した事のなかった避難所設営の訓練まで体験した事で大変有意義な訓練となった。

多くの仮想避難者が受付に押し寄せた。

体育館に集まった仮想避難者の皆さん。

マイクを通じて、避難所設営進行が今、どのような状況で実施されているかを全員にわかりやすく説明しながら進めることできた。

避難生活の状況を説明。

災害対策本部をステージ上で実演

楽しみながら避難生活を体験する

主催　秋津コミュニティ

防災をかねたワンデーキャンプ

1997年から夏休み最初の土曜日と日曜日に、避難場所である秋津小学校に併設されている秋津幼稚園の園庭で、防災避難訓練を兼ねた一泊キャンプを行っている。

慣れない手つきで包丁を握り夕食の材料を切るおじさん達も活躍。

テントは地域の大人の指導で子供たちが自分で設営する。

おにぎり作りで子どもたちも活躍。

竹の棒にパン生地を巻いておやつの棒パンを焼いている。

夕食後のおやつは井戸水で冷やしたスイカ。

夕食のごはんはお釜で炊く。

焚き火を囲んでマイムマイムを踊りながらキャンプファイヤー。

地域のおじさんたちも子供と一緒に夕食の豚汁作り。

ロッカーを横にした手作り露天風呂。
風呂の湯は井戸水をドラム缶で沸かしたもの。

再現３．１１東日本大震災 秋津地区の被害を忘れない！

東日本大震災から３年半が経過した。
あの時の被害の様子を今一度振り返り、大地震がもたらした被害の大きさを思い起こそう！
平成２３年３月１１日金曜、午後２時４６分、宮城県牡鹿半島沖を震源として発生した巨大地震は、日本の観測史上最大のマグニチュード（M）９を記録し、東北地方を中心とした大震災と原発事故、液状化、漁業、酪農、農作物、風評被害等の未曾有の被害をもたらした。

習志野市内では国道１４号以南の東京湾埋立地である香澄、袖ヶ浦、秋津、谷津地区で液状化現象による地盤沈下や隆起、戸建住宅塀の倒壊、家屋の傾斜、電柱の傾斜、道路の陥没・隆起、上下水道の破損被害が多発した。

公園には仮設トイレが設置された。

京葉道路を越え、袖ヶ浦方面に渡る歩道橋スロープの橋桁の一部が崩れ、通行止めとなった。

袖ヶ浦地区では自衛隊の給水車が出動した。

袖ヶ浦６丁目では電柱の傾斜があいついだ。

秋津地区の下水道管は下流の一部で汚水幹線が詰まったため、応急処置として、雨水管を経由して、菊田川に塩素を添加し、排水された。

袖ヶ浦東小学校前の道路はアスファルトの隆起が激しく数週間、放置された。

菊田川の護岸が動き、川沿いの歩道に沈下と大きな亀裂が発生した。

茜浜地区の菊田川の護岸が倒壊した。

団地内のいたる所で水を含んだ土砂噴出した。

第一団地は地震直後に１、２街区で断水した。団地一帯に液状化に伴い地盤が沈下し、住棟入口共用玄関と外との間に大きな段差が発生した。

一部のゴミ置場や自転車置場、電柱が傾斜した。

震度５強に見舞われた東京湾埋立地である秋津地区内は全域に地盤の液状化現象が発生し、いたる所で水を含んだ土砂が噴出した。

秋津小学校では液状化により校庭全体が水を含んだ泥が噴出し、地盤が沈下して１階テラスの下に空洞が発生し、プールの防水が切れる被害が発生した。

3号児童公園に噴出した土砂が堆積した。

新習志野公民館の広場に噴出した土砂が堆積した。

「ミスターマックス」や「セブン・イレブン」等の店舗では乾電池や携帯ラジオ、懐中電灯などの防災グッズが売り切れになった。
水道水の放射能汚染による不安から飲料水を求めて長い列が続いた。

避難所となった秋津小学校

大地震発生後、全ての電車が終日停止したため、東京方面に通勤している大半のサラリーマンは帰宅できなかった。歩いて帰宅した人や何時間もかかって帰宅した人が多数いた。

11日(金)大地震後に避難所として開設された秋津小学校体育館には新習志野駅を利用して通勤する帰宅困難者や秋津地区内に居住するグループホームの高齢者と介護者、４・5丁目とヴェルデコアから10家族（40名）等の約130名が避難し、一夜を過ごした。

翌日12日(土)はグループホームの高齢者と介護者約30名がコミュニティ和室で二日目を過ごした。
これに対応して秋津地区からは秋津コミュニティと自主的に集まってくれた有志の計13名そして日赤秋津分団９名、合計22名が炊き出しを行って、ご飯・おにぎり・豚汁・カレー・お粥などを作り提供した。万一に備え12日夜は地元有志が交代で一夜、学校内に待機した。

四丁目自主防災会の取組み

今、秋津四丁目自主防災会は秋津地区の中で最も活発に防災活動を行っています。防災意識の向上のため、各戸に「自主防災会通信」を発行しています。

秋津4丁目　第3号

自主防災会通信

Be prepared and have no regrets. 備えあれば、憂いなし　秋津4丁目自主防災会発行

災害時に、これだけは準備しておきたい

防災用品ベスト3 !!

■ 阪神・淡路大震災の教訓による準備したい「防災用品」ベスト10

①簡易トイレ
②3日分の保存食・水
③懐中電灯
④応急手当用品
⑤ラジオ
⑥携帯電話用充電器
⑦寒さ対策
⑧ビタミンなどの栄養補給サプリメント
⑨赤ちゃんのための離乳食やオムツ、おもちゃ
⑩高齢の方のための柔らかい食品など

ベスト1：簡易トイレ（排泄物凝固剤入処理袋）

阪神淡路大震災の時、一番困ったことはトイレの問題でした。避難先の小学校のトイレは水が流れないために糞尿であふれかえり、運び込まれた災害地のための仮設トイレも汲み取りが出来ないためにどんどん使えなくなってしまったのが現状のようです。水洗トイレが発達している今日、断水するとトイレパニックが起きます。…

そこで、これらの教訓から、災害時の簡易トイレとして「排泄物凝固剤入処理袋」が考案されました。トイレに排便袋を装着し、用を足した後に凝固剤を振りかけるだけで排泄物をすばやく固め（雑菌、悪臭も抑えるので衛生的）、後は可燃ごみとして簡単に処理できます。是非、各ご家庭で備えていただきたい防災用品の一つです。

➢ 自主防災会で準備するのは予算の関係上不可能ですので、皆さまのご協力をお願いいたします。下記に商品の一例をご紹介しますので参考にして下さい。

サニタクリーン　天使の器　マイレットS・100

秋津4丁目　第11号

自主防災会通信

Be prepared and have no regrets. 備えあれば、憂いなし　秋津4丁目自主防災会発行

平成24年3月24日

★大震災に備え、もう一度ご家庭内の安全をチェックしてみてください！

23年度防災訓練「防災クイズ」より

□家具の固定は万全ですか？

震度6以上では家具が家庭内を飛び回ります。家具の下敷きにならないよう、もう一度点検をしましょう。

□万一に備え、最低7日分の食料と水を備蓄していますか？

先ずは、自助努力として食料と水の備蓄をお願いします。

□津波警報が発令された時の避難場所は、秋津小学校4階建校舎です。

□自分で避難ができない場合は、日頃からお隣近所に協力を依頼しておきましょう。

□日頃、お風呂には水をはり、震災直後はブレーカーを落とし、「SOS・大丈夫です」表示板を玄関に掛けて避難しましょう。

ブレーカー落としは、「通電火災」を防ぐために必ず行いましょう。

回覧

秋津4丁目　第17号

自主防災会通信

Be prepared and have no regrets. 備えあれば、憂いなし　秋津4丁目自主防災会発行

平成25年6月16日

防災訓練

掲示率100%を目指しましょう！

第3回「SOS/大丈夫です」の掲示訓練を実施します。

■実施日：7月7日（日）午前9:00（雨天中止）

■実施内容：

午前9時までに、「大丈夫です」を表にして、玄関先か門に掲示してください。

※各ブロック連絡員が9時以降に巡回し、表示板をポストに収納させていただきますので、外出されるご家庭も安心です。
なお、当日外出される方は、事前にブロック連絡員までご連絡をお願いします。ご協力のほどよろしくお願いします。

【掲示例】

回覧

秋津4丁目　第18号

自主防災会通信

Be prepared and have no regrets. 備えあれば、憂いなし　秋津4丁目自主防災会発行

平成25年7月13日

7月7日（日）の「SOS/大丈夫です」掲示板

掲示訓練のご協力ありがとうございました。

掲示率の結果は、全区で **70.1%**（前年比10%増）でした。

更なるご協力をよろしくお願いいたします。

掲示板は、日頃、玄関など目のつきやすいところに保管しましょう！

【ブロック別掲示率】

ブロック	世帯数	掲示世帯数	掲示率
1	14	2	14.3%
2	10	3	18.8%
3	13	8	61.5%
4	15	11	73.3%
5	14	9	64.3%
1区計	72	33	45.8%
6	11	8	72.7%
7	12	11	91.7%
8	10	10	100.0%
9	15	7	46.7%
10	10	10	100.0%
11	14	11	78.6%
2区計	72	57	79.2%

ブロック	世帯数	掲示世帯数	掲示率
12	12	10	83.3%
13	12	4	33.3%
14	12	8	66.7%
15	13	12	92.3%
16	8	8	100.0%
3区計	57	42	73.7%
17	12	12	100.0%
18	11	11	100.0%
19	10	9	90.0%
4区計	33	32	97.0%
全区合計	234	164	70.1%

「共助」のための大切な訓練です。みんなで参加しましょう！

次回は、9月1日（日）9:00～「習志野市総合防災訓練」時に実施します。

秋津4丁目　第7号

自主防災会通信

Be prepared and have no regrets. 備えあれば、憂いなし　秋津4丁目自主防災会発行

平成23年（2011年）5月1日

災害からあなたを守る

「防災手帳」等の配布について

秋津4丁目自主防災会では、このたびの東日本大震災を教訓に会員のみなさまの防災の一助として「防災手帳」、「ホイッスル」、「SOS 掲示板」をそれぞれ配布させていただきました。防災手帳は小型版ではありますが、日常の防災に対する備えや災害時の対応など、役に立つ内容が記載されておりますので、是非、この機会にご一読いただきますようお願い申し上げます。

◆地震！そのときどうする？　地震発生時の行動パターン（防災手帳 P8より）

地震発生後20分以内の行動とは・・・

緊急地震速報　強い揺れに注意してください。落ち着いて行動してください。

地震発生

① 落ち着いて自分の身を守る
・机の下などへ、倒れてくる家具や落下物に注意。
② 火の始末はすばやく
・コンロの火を消す、ガスの元栓を閉める（無理はしない）。
③ ドアや窓を開けて、脱出口を確保する

発生後1～5分　津波警報発令の場合

④ 緊急避難
地震の震源地が近海の海底で起こった場合、津波警報に注意してください。津波警報が出た場合は、すぐ避難してください。
避難場所は、秋津小学校の4階建て校舎です。
※津波以外の避難場所も秋津小学校（体育館）です。
秋津総合運動公園ではありません。（自主防災通信、号外その2参照）

津波発生

秋津小学校体育館・4階建校舎

・特に一人暮らし高齢者など災害時要援護者がいる世帯には積極的に声をかけ、安否を確認してください。避難が必要な場合は、複数の方で対応してください。（自主防災会のメンバーに連絡してください。）
※動けない方は、日頃から担架、車いす等を準備しておかれることをお勧めいたします。）

発生後10～20分

⑦ SOS 掲示板の表示（今回、自主防災会で配布）
・自宅で動けない家族がいる場合や救助が必要な場合には、「SOS 救助求む！」の掲示板を玄関先（ドア）に掛けて外部の応援を頼んでください。
救助が必要でない場合も「大丈夫です」の表示を、玄関先に掲示をお願いします。
さらに、必要に応じて「ホイッスル」を鳴らしてください。

⑧ 消火・救助活動

初期消火の時期
出火してから出分前後で壁板、畳、障子などの火もえ移る前に消える。

消防隊による消火活動
天井に燃え移るまでに約出分30秒。出火の場所や状態によっては1時間

消防隊による消火活動
約5分後には、隣家各部屋へ延焼。火は隣の天井へ（約7分）。全焼まで約20分。

消防署からの一言

倒壊家屋からの救出には、数時間かかることが多く、消防署員だけでなく全国からの応援隊の協力を得て全力で救助活動を行いましたが、被災地が広範囲で残念ながら全ての力を尽くすことができませんでした。倒壊した建物の一つ一つとつぶさに確認し、生き埋めの気配や可能性があれば、徹底して捜索、救助を行いましたが、これに大きな時間がかかりました。避難所をこうした**ホイッスル**などの方法で伝えることは、非常に有効であると思われます。また、救助活動をする側にとっては「全員無事で秋津小学校に避難しています。」といった安否を伝えるたった一枚の張り紙が非常に役に立ちました。

秋津4丁目自主防災会通信　【第19号】

9月1日「習志野市総合防災訓練」のご案内

みんなで参加しよう！秋津の防災訓練

平成25年8月17日

9月1日の「防災の日」に、秋津地区の総合防災訓練を習志野市と共同で開催します。今回の防災訓練は「**東京湾北部地震**（M7.3、**震度6弱**）」を想定して、自分の身は自分で守る「自助訓練」、隣近所の安否確認を行う「共助訓練」および「避難所訓練」に重点を置いた、**全員参加型の訓練**です。

先ずは、いざという時のために、みんなで第一歩を踏み出してみましょう！

【防災訓練の手順】

ステップ1　9時00分（自助訓練：自宅）
防災無線で訓練のお知らせがあります。

① 合図とともにテーブルの下にもぐり、1分間じっとしていましょう。

「シェークアウト（Shake out）訓練」といわれるアメリカ最大の地震訓練方法です。特に頭を保護し、地震がおさまるまでじっとしていることがポイントで、どこにいても実践しましょう。

② 火の始末をし、ブレーカーを落としましょう。
次に大切なことは、自分の家から火を出さないことです。そのために家を離れる前に、火の始末をすることとブレーカーを落とす（通電火災の防止）ことを忘れないようにしましょう。

ステップ2　9時20分（共助訓練：隣近所）

③ 隣近所の安否確認を行いましょう。（第4回「SOS/大丈夫です」掲示訓練）
9時20分から9時30分の間に掲示をお願いします。（各ブロック連絡員が巡回します。）
また、この機会に家族間の安否確認方法もしっかり話し合っておきましょう。

ステップ3　10時00分（避難場所訓練：集会所）

④ 集会場（避難場所）へ移動しましょう。
一旦、集会所に集まります。各ブロックの掲示事中の発表後、秋津４丁目の避難対策、災害情報内の点検を行います。その後、秋津小学校体育館に移動します。

ステップ4　10時30分頃より（避難所訓練：秋津学校体育館）

⑤ 避難所開設の手順を体験しましょう。
実際の災害では、地域の安否確認・救出救護や初期消火終了後、自宅が無事であれば避難所で生活する必要はありませんが、本訓練では、自宅が倒壊したと仮定して避難所の開設手順を体験して頂く訓練です。
体育館では、各自、受付を済ませてから各団体の場所（表示がありますので）に集合してください。

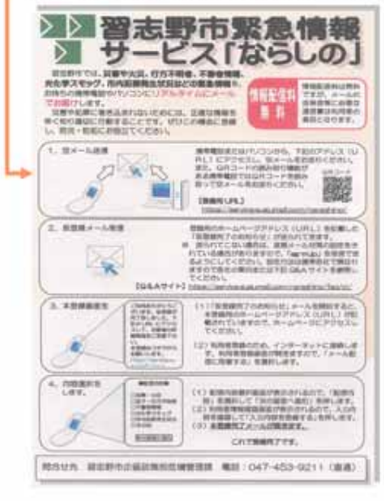
回覧

秋津4丁目　第20号

自主防災会通信

Be prepared and have no regrets. 備えあれば、憂いなし　秋津4丁目自主防災会発行

平成26年5月18日

いざというとき、とても安心！！

「習志野市緊急情報サービス」を携帯メールに登録（バーコードリーダーから QR コードを読み取るだけです。）し、危機管理課からの災害情報をみんなで共有しましょう。